

研究主題 「主体的に学ぶ生徒の育成」
～大和プロジェクトやコミュニケーション活動を通して～

I 研究の内容

1 主題設定の理由

小学校から中学校卒業まで、様々な活動や行事、授業を少人数で取り組んできた。そのため、授業中の発言に偏りが出たり、諸活動の話し合いで意見を出す人が限られていたり、生徒によって差が出ている。また、限られた人間関係の中での生活であるため、自分が積極的に行動しなくても、ある程度の役割分担がなされてしまい、進んで行動しようとする意識が低いように思われる。課題設定の工夫や、展開の工夫、効果的な教材の利用やICT機器の活用などを通して、自らが積極的に学ぶことを目指していきたい。来年度である平成30年度には、学習指導要領が改訂され、「深い学び、対話的な学び、主体的な学び」を軸としたアクティブラーニングが求められている。本校の生徒の特性から、自らが学びに対して主体的に取り組めるように、授業の実践を通して研究していきたい。また、気心が知れた仲間との限られたコミュニケーションだけではなく、積極的に他者とのコミュニケーションをとり、互いに刺激しあって高め合う活動を仕組んでいきたい。互いに高め合う活動の基盤を固めることで、「大和プロジェクト」による質問し合い、教え合う活動にも向上が見られ、家庭学習がより効果的に行われるようになると考えた。

本年度は、県から防災教育のモデル校として指定を受けている。大和地区は、土砂崩れの危険性があり、防災マップにも記載されている。実際に避難するとなれば、中学生は自らの命を守るとともに、地域の一員としての役割をもって支援する側として接する場面も出てくる。そのときに、自らが主体的に動き、地域の方と積極的にコミュニケーションをとって活動していかなければならないため、授業だけではなく、あらゆる場面で言語活動を取り入れた取組が必要になると考えた。与えられた仕事を行っていただくだけではなく、周りの様子から自分ができることや、誰かがやらなければならないことに気づき、素早く行動できる生徒を育成していくため、この主題を設定した。

2 具体的研究項目

(1) 大和プロジェクト

- ①学級づくり
- ②PDCAサイクルによる、より効果的な家庭学習の確立
- ③「自主学習ノート」の作成
- ④「学びの甲斐善八か条」の実践
- ⑤定期テスト前合同学習会

(2) 授業づくり

- ①甲州市 Teacher's note を活用した授業実践

②「県 学校一実践・一人一実践」の取組

③家庭学習との連携

④初任者による研究授業

⑤道徳教科化に伴う年間指導計画の実践

(3) 防災教育

①避難訓練の実施と反省

②防災マップの作成

③防災学習会の実施

3 研究の経過

(1) 大和プロジェクト

1 学期：Q-Uの実施と分析 振り返りノート活用開始 振り返りノートの改善
合同学習会

2 学期：Q-Uの実施と分析 振り返りノートの改善 自主学習ノートの見直し

(2) 授業づくり

2 学期：一人一実践による授業研究会 初任者による研究授業と授業研究会

(3) 防災教育

1 学期：小中合同心肺蘇生法講習会 抜き打ち避難訓練実施

夏休み：小中合同教職員のDIG講習会

2 学期：小中合同DIG活動 DIG発表会 抜き打ち避難訓練実施

II 成果と課題

1 成果

大和プロジェクトに「振り返りノート」を導入した。毎日の授業を振り返り、翌日に発表し合うことで他者の学習を参考にしたり、意欲付けにつながったり、成果が大きく現れた。個人差があるものの、全員が取り組んでいるので家庭学習の向上につながるものになったと考えられる。

授業づくりにおいて、確かな学力育成プロジェクトの教育講演会を参考に、講演の内容を活用しようとするものが多く、授業改善の意識が高くなっていることを実感できた。反省においても、前向きな意見が多く互いに向上しようとする取り組みができた。

防災教育においては、小学校と合同で取り組んだDIGの成果が非常に大きいと感じる。地域の様子を元に考える中で、地域や家庭と連携をしていくきっかけとなった。

2 課題

大和プロジェクトの振り返りノートは、まだ改善していく必要がある。個人差が大きいため、形式と自主学習へどうつなげていくかを考えていく。また、学習や取り組みの成果を「見える化」して達成感を得るように工夫し、更に向上させていきたい。

防災教育においては、今年度取り組んだことを来年度に継続できるように工夫していく必要がある。また、教員と生徒だけではなく、保護者や地域の方とどう連携するか、学校で得た成果をどう還元していくかが今後の課題となっている。(研究主 駒井隆浩)